

第1回 JR加古川線（西脇市－谷川間）維持・利用促進WT会議 議事録

1 日 時 : 令和4年7月26日（火）15:00～17:10

2 場 所 : 西脇経済センタービル7階研修室

3 出席者 :

沿線市 西脇市都市経営部長、西脇市産業活力再生部長、丹波市ふるさと創造部長（代理）

JR西日本 近畿総括本部神戸支社副支社長

交通事業者 神姫グリーンバス（株）取締役

観光事業者 神姫バス（株）地域事業本部本部長（代理）

利用者 西脇商工会議所専務理事、丹波市商工会事務局長、西脇高等学校長、西脇連合区長会会長、丹波市自治会長会会長

兵庫県 北播磨県民局県民交流室長、丹波県民局副局長兼県民交流室長

有識者 （株）ノヴィータ代表取締役会長

4 オブザーバー 企画部総合政策課主幹、土木部交通政策課副課長、同課主幹

5 議 事

（1）JR加古川線（西脇市－谷川間）の現状

① 加古川線（西脇市～谷川）の現状について

- ・4月に輸送密度2,000人未満の線区の、線区別の収支と課題認識を発表。これら線区は大量輸送機関としての鉄道の特性が十分に発揮できておらず、CO2排出面でもバスや乗用車などの方が明らかに優位性がある。
- ・当該区間は発足当時一日あたり1,131人の輸送密度が、コロナ前の2019年度には321人。神戸電鉄粟生線や北条鉄道と比べても利用状況は深刻で、近畿圏エリアで最も利用が少ない。背景に沿線地域人口減と道路中心のまちづくりの進展などが考えられ、ダイヤの見直しの検討も必要。
- ・移動特性や移動ニーズを把握し、多くの方々に利用して頂け、地域の発展にも貢献できるコンパクトでしなやかな地域公共交通の再構築に向けて議論したい。

② 鉄道の必要性について

- ・マイカーから鉄道へのシフトは難しいが、今までの取り組みを継続プラス α で行っていく必要がある。
- ・民間と協力し駅周辺の活性化など実際にできることを選択していくべき。
- ・持続可能な観点からも公共交通はなくてはならないものだと感じている。

③ 北播磨県民局の取組について

- ・これまでの取組みとして、JR 加古川線へのラッピング事業や駅周辺整備（駐輪場等）への助成、鉄道絵画展、さらには誘客のための様々なイベント開催を行ってきた。現在も JR だけでなく、神戸電鉄粟生線と北条鉄道を合わせて活性化事業に取り組んでいる。
- ・今回の問題を受けて、西脇市から谷川間近郊の若者（高校生）との意見交換会、アンケートを実施予定。

④ 沿線市（西脇市、丹波市）の状況について

- ・6月20日、加古川線の維持・存続及び利便性の向上に関する要望書を国土交通省に提出。
- ・6月24日 RT では、加古川線の維持・確保に向け沿線自治体や県と連携を図りながら強い気持ちで取り組んでいく旨発言。
- ・西脇市から谷川間の観光資源を活用して利用促進につなげたい。
- ・利用促進に向け、地元観光資源の活用やレンタサイクル・サイクルトレインさらには、施設整備（ICOCA の導入）など様々な提案をしていきたい。

（2）講演「地域に寄り添う鉄道」

- ・ユーザーから見える景色は、異なっており、地元の活動家をリストアップし、どのような思いでどのように活動をしているのか、地域がどんな風に協力できるのか等可能性を探っていく。
- ・市民自らがやるものとして、シビックプライドや誇りを擦り、既にやっている地元の人々の活動に乗るといった視点を持ち、地域を盛り上げていくことが必要。

（3）その他

- ・沿線住民の関心・意見を踏まえた上で検討することが必要。
- ・少子高齢化、過疎化などの問題から日常利用だけでなく、いかに人を呼び込むか検討することも必要。
- ・当該区間は非常時の迂回ルート役割も担う。
- ・高校生目線では鉄道もそうだが、バス等の二次交通の充実を求める意見が多い。
- ・交通手段が限られる学生や高齢者にとって鉄道含む公共交通は必要。
- ・万博やインバウンド回復を見据えたとき、外国の方に公共交通は必要。
- ・サイクルトレイン、ダイヤ改正、定期券運賃補助などの対策を含め、鉄道利用の呼びかけを行っていく。
- ・貨物路線としての活用も検討すべき。